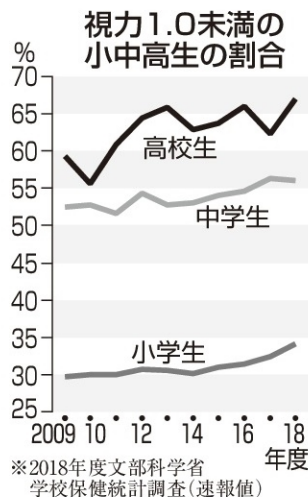


子の視力1.0未満 最悪

本年度文科省学校保健調査

虫歯・肥満は減 高校生67%、小学生も34%

裸眼の視力が「1・0未満」の高校生の割合は3人に2人の67・09%に上り、過去最悪となったことが21日、文科省の2018年度学校保健統計調査(速報値)で分かった。小学生も過去最悪だった前年度からさらに増加し34・10%。一方、虫歯の割合は中学生で最も少なくなり、肥満傾向児の割合も長期的な減少傾向が続いた。



文科省によると、「視力1・0未満」の割合は、幼稚園では4人に1人の26・69%、中学生で半数以上の56・04%となるなど、加齢により上昇。どの学校種でも統計を取り始めた1979年度以降、増加傾向が続いている。「視力0・3未満」の割合は中学生で25・54%、高校生で39・13%に上った。

一方で、虫歯の割合は幼稚園や小中高校の全学校種で前年度より下がり、35・41%の中学生と45・36%の高校生は過去最低となった。口腔ケアに対する意識の高まりや学校の保健指導の充実が要因という。身長別標準体重から算出した肥満度が20%以上の肥満傾向児の出現率を学年別にみると、男子は高1の11

スマホ普及影響か

日本近視学会理事長の大野京子東京医科歯科大教授の話 視力1.0未満の子ども増加は、スマートフォンの普及などにより近くで物を見て作業することが増えた影響だろう。人の眼球は本を読む程度ならいいが、スマホなどのように極めて近距離で物を見るようにはつくられていない。屋外活動も減り、悪化に拍車がかかっている。小学生の間は、まだ眼球は成長しており、近視を招く作業をすると、将来的に病的な近視に進行し失明するリスクも高まる。

・01%、女子は小6の8・79%が最も高かった。学年によつて前年度からの増減はあるが、減少傾向が続いている。東日本大震災以降、運動不足などで肥満傾向児が増えた福島県も目立った増加などはなかった。

ている。東日本大震災以降、運動不足などで肥満傾向児が増えた福島県も目立った増加などはなかった。